



LAN・デ・ブート
ミニ

RPC-4L

取扱説明書

mini
LAN
deBOOT
REMOTE POWER CONTROLLER



明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

LAN・デ・ブート ミニ R P C -4L をご購入いただき誠にありがとうございます。

LAN・デ・ブート ミニ R P C -4L はネットワーク経由でシステム機器の制御 / 管理をする電源制御装置です。4 個の 100VAC 電源を個別に制御 / 管理でき、またケーブル接続された無停電電源装置 (UPS) をネットワーク経由で管理することもできます。LAN・デ・ブート ミニが皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。ご使用前に、必ず本書をお読みください。お読み終わった後も大切に保管してください。

付属品一覧



本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

- | | | |
|----------------------|-----------------------------|-----|
| 1. 取扱説明書 | | 1 部 |
| 2. CD-ROM | | 1 枚 |
| (内 容) | ・ 取扱説明書 (PDF ファイル) | |
| | ・ ユーティリティソフト・インストールファイル | |
| | ・ Acrobat Reader インストールファイル | |
| | ・ プライベート MIB ファイル | |
| | ・ P Tシャットダウン・インストールファイル | |
| | ・ ツールソフト (tncom) | |
| | ・ サンプルソフト | |
| 3. 保証書 | | 1 部 |
| 4. RS232C (クロス) ケーブル | | 1 本 |
| 5. 2P/3P 変換コネクタ | | 1 個 |

安全上のご注意



この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は⊘の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

AC100V(50または60Hz)以外の電源電圧では使用しない
表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しないでください。
特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。
感電や故障の原因となります。



アース接地

本装置背面のACコンセントは15Aまで

本装置背面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。
合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量15Aまで

たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。
本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

警告

ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります。



ぬれた手でさわらない

本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

異物を入れない

製品の通気孔などに、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない
スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、F G端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。また、雷がひどい場合は、本装置の電源プラグをコンセントから抜き、接続されているコネクタ類をすべて抜いて、雷がおさまるまで使用を控えてください。



雷のときは、触らない

分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、背面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

注意

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

通気孔をふさがない

製品には、内部の温度上昇を防ぐために通気孔が開けられています。壁際の設置は、通気孔から5 cm以上離してください。通気孔から5 cm以内に、物などを置かないでください。内部に熱がこもり、やけどや火災の原因となることがあります。



通気孔をふさがない

風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

温度が高くなる場所に置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になる場所に置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください)。薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

注意

逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でのくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

不安定な場所やお子様の手が届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手が届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

第 1 章	はじめに	9
	1. 機能概要	
	2. 接続可能な無停電電源装置 (UPS)	
	3. 各部の名称と機能	
	4. DIP スイッチの設定	
	5. LED 表示について	
第 2 章	設置・取り付け	14
	1. デスクトップへの設置	
	2. ラックへの取り付け	
	3. 固定方法	
第 3 章	初期設定	16
	1. ユーティリティによる設定	
	2. ターミナルソフトによる設定	
	3. コマンド一覧	
	コマンド一覧表	
	UPS レベルビット構造表	
	4. LAN からの IP アドレス設定	
第 4 章	機能設定	28
	1. ログイン	
	2. ログアウト処理	
	3. ボタン仕様	
	4. 機器設定	
	5. ネットワーク設定	
	6. セキュリティ設定	
	7. 監視設定	
	8. Wakeup 設定	
第 5 章	機器の電源制御	42
	1. Web ブラウザによる制御	
	2. telnet 接続による制御	
	制御コマンド一覧表	
	3. モバイル端末からの制御	
	4. i-MODE 端末からの制御	
	5. シリアルからの制御	
	6. モデムからの制御	

第 6 章	シャットダウン	53
	1. シャットダウンについて	
	2. 接続	
	3. 本機の設定	
	4. パソコンの設定	
第 7 章	ロギング機能	55
	1. ロギング機能の設定・表示	
	ログモード	
	記録ログ一覧表	
	ログ表示形式	
	ログ用コマンド表	
第 8 章	無停電電源装置 (UPS) との連携	59
	1. 本機と無停電電源装置 (UPS) の接続	
	2. Web ブラウザによる設定	
第 9 章	システム情報	63
	1. システム情報について	
第 10 章	SNMP の使用	67
	1. SNMP について	
	2. MIB について	
第 11 章	仕様一覧	69
	仕様一覧表	
	タイムチャート	
	状態遷移表	
	Web ツリー構造図	

第 1 章 はじめに

1. 機能概要

本機には以下の機能があります。

- 1) 4 個の 100V A C 電源を個別に遠隔制御/管理
 - ・ ハングアップした P C / サーバや通信機器の遠隔リブート
 - ・ P C / サーバの個別シャットダウン
- 2) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・ 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 3) 無停電電源装置 (U P S) 接続によるシャットダウン処理
 - ・ 停電発生時、接続された P C / サーバへのシャットダウン信号送出
- 4) Ping による死活監視
 - ・ 異常を検知し、ホストへの通知や接続機器の自動リブート
- 5) MAGICPACKET による起動
 - ・ Wake On LAN 対応デバイスのブートアップ
- 6) 携帯電話から電源制御
 - ・ i-MODE 対応端末からの情報取得/電源制御

2. 接続可能な無停電電源装置 (U P S)

接点通信式無停電電源装置 (U P S) が接続できます。

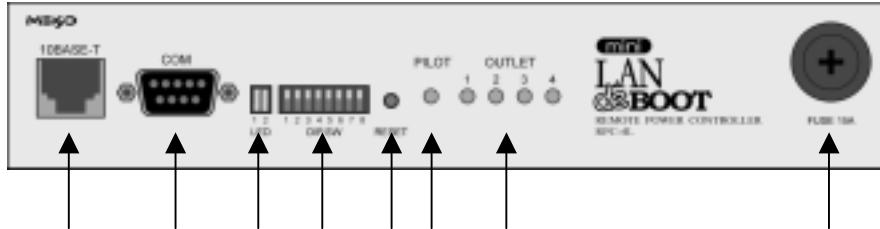
- ・ Windows N T / 2000 / X P などの標準 U P S サービスに対応している必要があります。

U P S の設定は、添付の設定用ユーティリティ (初期設定時) または Web コントロールプログラム (機能設定時) のどちらからでもできます。

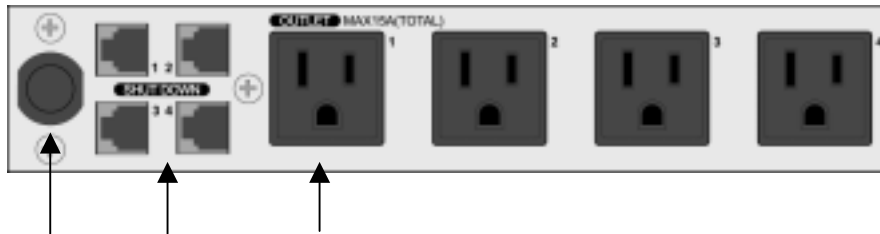
詳しくは P.59 「第 8 章 無停電電源装置 (U P S) との連携」 参照

3. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



10BASE-T	LAN ケーブル (8 ピン RJ45) を接続します。
COM	初期設定用及び UPS 及びモデム・シリアル接続用通信ポートとして使用します。
LED	CPU の通信状態を表示します。
DIPスイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
RESET スイッチ	出力電源に影響を与えずに CPU を初期化します。
PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
OUTLET LED	AC アウトレットの電源出力状態を表示します。
FUSE	ガラス管ヒューズ 15A を使用します。
電源コード	商用電源、UPS などに接続します。
シャットダウン I/F	シャットダウンケーブル (別売) を接続します。
AC アウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

4. DIP スイッチの設定

注意 DIPスイッチを操作するときは、本体の AC アウトレットから全デバイスを取り外してください。
DIP スイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面の RESET スイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

DIPスイッチの機能 (OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	シリアル・モデム運転モード
	ON	UPS (接点信号式) 運転モード
2	OFF	OFF に固定
	ON	未使用
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード (初期設定)
4	未使用	常に上 (OFF)
5	未使用	常に上 (OFF)
6	未使用	常に上 (OFF)
7	未使用	常に上 (OFF)
8	未使用	常に上 (OFF)

DIPスイッチの設定

		1	2	3	4	5	6	7	8
初期設定時	OFF								
	ON								
通常運転時	OFF								
	ON								
モデム接続時	OFF								
	ON								
接点通信式 UPS 接続時	OFF								
	ON								

5. LED表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

詳しくはP.11「第1章-3.各部の名称と機能」参照

1) LED

CPUの通信状態を表示します。

NO.	用途	状態	表示
1	TCP/IP通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯
2	CPU状態	正常運転時	点滅

2) PILOT LED

本体に電源投入されている場合に点灯します。

3) OUTLET LED

ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

第 2 章 設置・取り付け

1. デスクトップへの設置

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。
設置場所は、単相 100VAC / 15A 以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグやコネクタが、差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面の 10BASE-T に LAN ケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本機を設置します。
- 3) 本体前面 10BASE-T に LAN ケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本機固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（4箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3 × 8 L (MAX) をご利用ください。

第 3 章 初期設定

初期設定は、付属のユーティリティソフト(Windows用)を利用します。

1. ユーティリティによる設定

ユーティリティソフトのインストール手順は添付CDのREADME.txtを参照してください。設定用PCと本機とは、付属RS232C(クロス)ケーブルで接続します。ユーティリティソフトはWindows対応ソフトです。それ以外の端末から設定する場合は、コンソールプログラムを利用して直接コマンド入力します。

- 1) 本体前面のDIPスイッチ.3をON(下)にします。
- 2) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 3) ユーティリティソフトを起動します。パスワード画面が表示されます。
パスワード「magic」(デフォルト)を入力し、COMポートを選択します。

パスワード画面



- 4) 「接続」ボタンをクリックします。基本設定画面が表示されます。

基本設定画面



5) 基本設定をします。

TCP/IPネットワーク設定

本機のネットワークに関する設定をします。

IPアドレス	デフォルト	: 192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	: 0.0.0.0
HTTPポート番号	デフォルト	: 80
TELNETポート番号	デフォルト	: 8000
無通信タイマー(秒)	デフォルト	: 600
	設定可能値	: 0、60～3600
	「0」	: 600秒後自動ログアウト
	「60～3600」	: 指定時間後にログアウト

指定した時間、ブラウザ画面の操作がまったく無い(無通信)場合に自動でログアウトします。

機器の電源制御画面の表示中は自動でログアウトしません。

パスワード変更

新しく設定するパスワードを2回入力し、「変更」ボタンをクリックします。
半角英数字で最大8文字まで指定できます。

デフォルト: magic

機器情報

機器名称: 本機に名称を付けます。本機を複数管理するときに便利です。
半角英数字で最大19文字まで指定できます。

Version

ROMバージョンの表示です。

機器設定の管理

設定ファイル保存

初期設定、機能設定で適用、更新された全ての設定データが保存されます。
パスワードも保存されます。

設定ファイル読込

保存された設定データを読込みます。「適用」ボタンをクリックし、読込んだデータを反映させます。初期設定、機能設定の全てが反映されます。

パスワードにも反映されます。

設定を初期化する

パスワード以外の全ての設定データをデフォルトに戻します。

- 6) 通信詳細を設定します。
「通信詳細」のタブをクリックします。通信詳細画面が表示されます。

通信詳細画面



HTTP 機能

ブラウザの電源制御機能と設定機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 有効

SNMP 機能

SNMP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 有効

TELNET 機能

telnet サーバー機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 有効

DHCP 機能

DHCP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 無効

BOOTP 機能

BOOTP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 無効

i-MODE 機能

i-MODE からの制御の有効 / 無効を設定します。

デフォルト： 無効

i-MODE 専用パスワード

i-MODE 接続時の専用パスワードを設定します。
半角英数字で最大 8 文字まで指定できます。

デフォルト： 0000

7) UPS の設定をします。

UPS のタグをクリックします。UPS 設定画面が表示されます。

詳しくは P.59 「第 8 章 無停電電源装置 (UPS) との連携」 参照

UPS 設定画面



POWER Trap 機能

電源制御時に SNMP の TRAP を送信する機能の有効 / 無効を設定します。

デフォルト：有効

コマンド送信

コマンドを選択し、詳細な設定ができます。

8) 拡張の設定をします。

拡張のタブをクリックします。拡張機能設定画面が表示されます。

拡張機能設定画面



モデム設定

モデムを利用する場合にチェックします。

モデム無通信タイマー(分)

指定した時間、モデムへの通信がまったく無い(無通信)場合に自動で回線を切断します。

デフォルト: 10

COM 設定

- Speed : 通信速度を設定します。
デフォルト: 38400 bps
- Data Bit : データビットを設定します。
デフォルト: 7
- Stop Bit : ストップビットを設定します。
デフォルト: 1
- Parity : パリティを設定します。
デフォルト: None

ロギング機能

ロギング機能の記録モード/表示モードを設定します。

詳しくは P.55 「第 7 章 ロギング機能」参照

記録モード	デフォルト：0
	0 : Ping 送信、Ping 無応答以外全て記録
	1 : Ping 送信以外全て記録
	2 : 全て記録
表示モード	デフォルト：2
	0 : Ping 送信、Ping 無応答以外全て表示
	1 : Ping 送信以外全て表示
	2 : 全て表示

9) 画面右下にある「適用」ボタンをクリックし、設定内容を有効化します。

注意 設定変更後は、必ず「適用」ボタンのクリックをしてください。
「適用」ボタンのクリックがないと、設定内容は反映されません。

10) 画面右下にある「終了」ボタンをクリックします。

11) 本体前面の D I P スイッチ.3 を OFF (上) に戻します。

12) 本体前面の RESET スイッチを押します。

以上で初期設定は完了です。

2. ターミナルソフトによる設定

1) 本体前面の COM ポートと設定用 PC の COM ポートとを付属ケーブルで接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

```
通信速度      :   38400bps
データビット  :   7ビット
ストップビット :   1ビット
パリティ      :   なし
```

3) 本体前面の DIP スイッチ . 3 を、ON (下) にします。

4) 本体前面の RESET スイッチを押します。

設定プログラムが起動し、下図が表示されます。

```
——— SNMP Agent System Configuration Utility ———
Password:
```

5) パスワード (デフォルト : magic) を入力し、ENTER キーを押すと、プロンプト「>」が表示されます。

6) 設定内容を入力します。

処理コマンド、設定コマンドにより設定の確認や変更をします。

詳しくは P.25 「第 3 章-3.コマンド一覧」参照

設定例) IP アドレス

設定内容を取得します。

「ipAdEntAddr」と入力し、<Enter> キーを押します。

現在の IP アドレスを応答します。

他の設定コマンドについても同様です。

```
>ipAdEntAddr                                <Enter>
ipAdEntAddr=192.168.10.1
>
```


設定内容を変更します。

変更内容「ipAdEntAddr=192.168.2.150」と入力し、<Enter>キーを押します。変更が正常処理されると、新しい設定内容が表示されます。

```
>ipAdEntAddr=192.168.2.150          <Enter>
ipAdEntAddr=192.168.2.150
>:w                                  <Enter>
>FROM update
```

7) 設定内容を有効化します。

「:w」コマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

注意 設定変更後は、必ず「:w」コマンドを実行してください。
コマンドがないと設定が反映されません。

8) 設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

9) 本体前面のDIPスイッチ.3をOFF(上)に戻します。

10) 本体前面のRESETスイッチを押します。

以上で設定は完了です。

3. コマンド一覧

コマンド一覧表

処理コマンド	内 容
:r	現在のメモリー内容を表示する
:w	設定内容をメモリーに書き込む
:e	エコーバックの ON/OFF 切替え
設定コマンド	内 容
Password	パスワード デフォルト: magic
ipAdEntAddr	本機 I P アドレス デフォルト: 192.168.10.1
ipAdEntNetMask	本機 ネット・マスク デフォルト: 255.255.255.0
ipRouteDest	デフォルトゲートウェイ デフォルト: 0.0.0.0
httpPort	Web プログラムが起動する HTTP ポート番号 デフォルト: 80
telnetEnabled	TELNET の有効化 / 無効化 1: 有効 (デフォルト) 0: 無効
snmpEnabled	SNMP の有効化 / 無効化 1: 有効 (デフォルト) 0: 無効
upsIdentName	UPS 名称 デフォルト: Noname
xupsMonitorInterval	UPS モニタ時間間隔 (秒) デフォルト: 10 設定可能値: 0、10 ~ 60
debMasterUpsAlarmWaitTime	シャットダウン開始待機時間 (秒) デフォルト: 120 設定可能範囲: -1 ~ 300
debMasterEnableUpsShut	UPS 自動停止 1: 有効 2: 無効 (デフォルト)
upsSignalLevel	停電検知レベル 設定は P.26 「UPS レベルビット構造表」参照
upsSignalLevel	ローバッテリー検知レベル 設定は P.26 「UPS レベルビット構造表」参照
upsSignalLevel	シャットダウン信号レベル 設定は P.26 「UPS レベルビット構造表」参照

UPS レベルビット構造表

制御フラグ (4 bit)			

0 : 負 1 : 正

停電検知レベル	デフォルト : 正
ローバッテリー検知レベル	デフォルト : 正
未使用 (1 : 固定)	
シャットダウン信号レベル	デフォルト : 正

以下は設定例です。

例-1)	停電検知レベル	「正」	
	ローバッテリー検知レベル	「正」	
	未使用 (1 : 固定)		
	シャットダウン信号レベル	「正」	設定値 : 15 (デフォルト)

例-2)	停電検知レベル	「正」	
	ローバッテリー検知レベル	「負」	
	未使用 (1 : 固定)		
	シャットダウン信号レベル	「正」	設定値 : 13

上記 3 項目は接点式 UPS を接続する場合に設定します。ご利用になる UPS の取扱説明書をよく確認し、設定をしてください。この 3 項目の設定を有効化するには、必ず「 : w 」コマンドの実行後、本体前面の RESET スイッチを押してください。

注意	設定後は、必ず「 : w 」コマンドの実行後、本体前面の RESET スイッチを押してください。 本機のリセットをしないと設定が反映されません。
-----------	---

4. LAN からの IP アドレス設定

- 1) LAN や VPN 上に 192.168.10.1 および 2 の IP アドレスを持つホストがないことを確認します。
設定用 PC と本機を 1 対 1 で接続する場合は必要ありません。
- 2) 設定用 PC の IP アドレスとネットマスクを以下の通り設定します。
Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。

IP アドレス : 192.168.10.2
ネットマスク : 255.255.255.0

- 3) 設定用 PC の Web ブラウザを起動します。
http://192.168.10.1 を指定し、本機にアクセスします。
機能設定のトップメニュー画面が表示されます。

注意 ブラウザは JavaScript と cookie に対応している必要があります。

- 4) 「設定メニュー」をクリックし、ログインします。
詳しくは P.28 「第 4 章 機能設定」参照
- 5) 「ネットワーク設定」をクリックします。
ネットワーク設定画面が表示されます。
- 6) 共通設定の IP アドレス欄にご利用になる LAN に適切な IP アドレスを入力します。
- 7) 「設定更新」ボタンをクリックします。
- 8) 「ログアウト」ボタンをクリックし、ログアウト処理をします。
詳しくは P.31 「第 4 章-2. ログアウト処理」参照
- 9) Web ブラウザを閉じます。
- 10) 本体前面の RESET スイッチを押します。
- 11) 設定用 PC の IP アドレスを元に戻します。
Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。

注意 設定後は、必ず「設定更新」ボタンをクリックし、本体前面の RESET スイッチを押してください。
本機のリセットをしないと設定が反映されません。

以上で LAN からの IP アドレスの設定は終わりです。

第 4 章 機能設定

機能設定は、Webコントロールプログラムを利用して設定します。

1. ログイン

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。
通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。

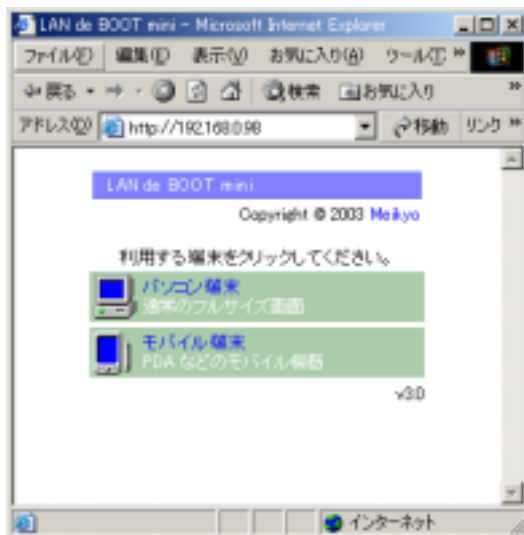
注意 ブラウザは JavaScript と cookie に対応している必要があります。

- 1) Webブラウザを起動し、本機に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合
`http://192.168.10.1`

HTTPポート番号「500」に設定した場合
`http://192.168.10.1 : 500`

- 2) トップページ画面が表示されます。
トップページ画面



- 3) 「パソコン端末」をクリックします。
ログイン画面が表示されます。

ログイン画面



- 4) ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名 : admin (固定)
パスワード : magic (デフォルト)

- 5) トップメニューが表示されます。

トップメニュー画面



2. ログアウト処理

設定や操作が終了し、Webブラウザを閉じる場合は必ずログアウト処理をします。

ログアウト処理

- 1) 各画面の下部にある「ログアウト」ボタンをクリックします。
「ログアウト」ボタンのクリックにより Web コントロールプログラムからログアウトします。
- 2) 画面はトップページに戻ります。Webブラウザを閉じます。

注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のままWebブラウザをとじた場合、一定時間、本機にアクセスできなくなります。この場合の一定時間とは、設定されている「無通信タイマー」の時間を指します。

「無通信タイマー」の設定は P.32 「第 4 章-4.機器設定」参照

3. ボタン仕様

Web 画面上のボタン仕様一覧

- | | | |
|---------|---|---|
| 設定更新 | : | 設定を更新します。
このボタンをクリックしないと変更した設定は反映されません。 |
| リセット | : | 変更前の設定へ戻ります。
設定更新ボタンクリック前の設定へは戻りません。 |
| 設定メニュー | : | 設定メニュー画面へ移動します。 |
| ログアウト | : | Web コントロールプログラムからログアウトします。
Web 画面を閉じる前に必ずこのボタンをクリックしてください。 |
| トップメニュー | : | トップメニュー画面へ移動します。 |

4. 機器設定

本機に接続されたデバイスの電源制御に関する設定をします。

- 1) トップメニュー画面から設定メニュー画面へ進み、「機器設定」をクリックします。機器設定画面が表示されます。

機器設定画面



- 2) 機器名称を設定します。
本機に名前をつけることができます。半角英数字 19 文字以内で指定します。
複数の本機を一括管理する場合に便利です。
- 3) OUTLET 設定の各項目に入力します。

Outlet Name (デバイス名称)

各アウトレットに名前をつけ、接続されたデバイスを識別します。半角英数字 20 文字以内で指定できます。

Shut down (シャットダウン遅延時間)

各アウトレットの電源出力を停止する際の遅延時間を設定します。この設定により、接続された機器を正常にシャットダウンしてから電源出力を停止できます。「-1」設定は、ルーターやハブなどの通信機器を接続する場合に便利です。電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

詳しくは P.53 「第 6 章 シャットダウン」参照

- ・個別 Outlet 制御の OFF 操作
- ・全 Outlet 制御の OFF 操作

デフォルト : 30

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」: Outlet 制御の OFF 操作を使用不可にします。
RESET 操作のみ可能です。

「0」: 即座に電源出力を停止します。

「1~3600」: 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

Reboot (リブート時間)

各アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) シャットダウン遅延時間は反映されません。

- ・個別 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

Power ON (電源出力開始遅延時間)

各アウトレットの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで各アウトレットの電源出力を開始させることができます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・本体電源投入時
- ・全 Outlet 制御の ON 操作
- ・全 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト : No.1-1 No.2-2 No.3-3 No.4-4

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」: 自動で電源出力を開始しません。

「0」: 即座に電源出力を開始します。

「1~3600」: 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

4) 共通設定の各項目に入力します。

再起動時間 (一斉リブート時間)

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) シャットダウン遅延時間は反映されません。

・全 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

無通信タイマー

Web コントロールプログラムから自動的にログアウトする時間を設定します。指定した時間、ブラウザ画面の操作がない場合に接続を切断します。

注) 「機器の電源制御」「UPS 管理」画面の表示中は自動ログアウトしません。

デフォルト : 600

設定可能値 : 0、60 ~ 3600 (秒)

「0」: 600 秒後に自動ログアウトします。

「60 ~ 3600」: 指定した時間後にログアウトします。

5) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

5. ネットワーク設定

- 1) 設定メニュー画面で、「ネットワーク設定」をクリックします。
ネットワーク設定画面が表示されます。

ネットワーク設定画面



- 2) 共通設定の各項目に入力します。
IPアドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。
共通設定の変更後は必ず本体前面の RESET スイッチを押してください。
- 3) システム情報設定の各項目に入力します。
機器名称、設置場所、連絡先の設定です。必要があれば設定します
- 4) SNMP設定の各項目に入力します。
SNMP マネージャーを利用してシステム管理をする場合に必要です。

コミュニティ名

SET、GET、TRAP コミュニティ名を入力します。

Authen Trap

authentication Failure Trap を送信したい場合に有効とします。

デフォルト : 無効

TRAP 通知先

最大 8 個のホストをトラップ通知先として設定できます。ホストの IP アドレスを入力します。

5) i-MODE 設定の各項目に入力します。

i-MODE 接続

i-MODE を利用して接続する場合に有効とします。

デフォルト : 無効

i-MODE 用パスワード

i-MODE 用パスワードを設定します。

半角英数 8 文字まで指定できます。

デフォルト : 0000

6) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

6. セキュリティ設定

- 1) 設定メニュー画面で、「セキュリティ設定」をクリックします。
セキュリティ設定画面が表示されます。

セキュリティ設定画面



- 2) セキュリティ制御の有効、無効を選択します。

デフォルト：無効

有効：レベルの設定によりアクセス、操作を制限します。

無効：ユーザー名やパスワードが一致すれば全ての操作を無条件に許可します。

- 3) セキュリティ設定の各項目を入力します。
セキュリティ制御を有効にした場合、アクセスを許可するホストまたはネットワーク（最大8個）や、操作できる権限レベルを設定します。

IPアドレス

アクセスを許可するホストまたはネットワークのIPアドレスを入力します。

サブネット

サブネットマスクはネットワークアドレスを設定する場合にのみ必要です。ビット数を入力します。ホストアドレスの場合は、設定しないでください。

例)

255 . 255 . 255 . 0 の場合は「24」

255 . 255 . 255 . 192 の場合は「26」とします。

レベル

セキュリティ制御を有効にした場合、アクセスを許可した各ホストまたはネットワークに対し、操作できる権限レベルを設定します。

権限レベルは以下の3段階です。

<code>ident</code>	:	システム情報の取得のみ システム情報（詳細）除く
<code>control</code>	:	システム情報の取得及び電源の制御のみ システム情報（詳細）除く
<code>admin</code>	:	全ての権限 (システム情報の取得、電源の制御、設定)

設定例)

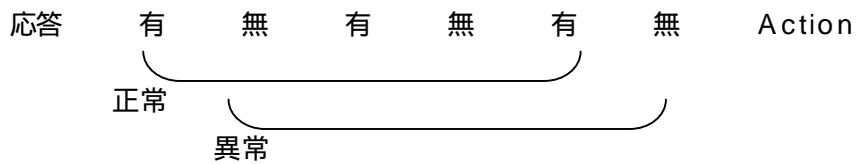
ホストの場合	IPアドレス	:	110.200.15.10
	サブネット	:	(空欄、入力不可)
	レベル	:	admin
ネットワークの場合	IPアドレス	:	110.200.15.64
	サブネット	:	26(255.255.255.192)
	レベル	:	control

4) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

7. 監視設定

本機に接続されたデバイスの状態監視機能の設定をします。監視設定されたデバイスに対し、1分間隔で状態確認 (ping) を行い、設定した送信回数内で設定した無応答回数があった場合に異常と判定します。無応答が設定した条件 (デバイス数) に達すると、設定された処理 (Action) を実行します。

判定例) 送信回数: 5 無応答: 3 の場合



注意 応答のない状態が続いた場合は、約 1 時間毎に設定された Action を実行します。再度、条件が成立しても Action は 1 時間に 1 度しか実行しません。監視設定した全てのデバイスから応答があると最初の状態に戻ります。

- 1) 設定メニュー画面で、「監視設定」をクリックします。
監視設定画面が表示されます。

監視設定画面



2) 監視設定の各項目に入力します。

IPアドレス

監視するデバイスのIPアドレスを入力します。各アウトレットに3個まで設定できます。入力されたIPアドレスに対して、状態確認のpingを1分間隔で送信します。

送信回数

pingの無応答回数を数える送信回数の設定です。

デフォルト : 10
設定可能値 : 1 ~ 100

無応答(回数)

送信回数内で異常と判定するpingの無応答回数の設定です。

デフォルト : 10
設定可能値 : 1 ~ 100

条件(回数)

異常と判定されたデバイスが設定した数に達するとActionを実行します。

デフォルト : 1
設定可能値 : 1 ~ 3

Action

実行させるActionを選択します。

NoPing	: 監視機能停止
noAction	: 処理なし
sendTrap	: SNMPトラップ送信
Reset	: リブート(電源リセット)
powerOn	: 電源 ON
powerOff	: 電源 OFF
SendTrap & reset	: SNMPトラップ送信 リブート(電源リセット)
SendTrap & powerOn	: SNMPトラップ送信 電源 ON
SendTrap & powerOff	: SNMPトラップ送信 電源 OFF

3) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

8. Wakeup 設定

本機に接続されたデバイスの Wake On LAN に関する設定をします。
Wake On LAN 対応の機器を電源出力開始と同時に MAGIC PACKET を送信しブートアップさせることができます。

- 1) 設定メニュー画面で、「Wakeup 設定」をクリックします。
Wakeup 設定画面が表示されます。

Wakeup 設定画面



- 2) Wakeup 設定の各項目に入力します。

Mac アドレス

ブートアップさせるデバイスの MAC アドレスを入力します。

パケット送信回数、パケット送信間隔

MAGIC PACKET の送信回数と、送信間隔 (秒) を設定します。

送信回数 デフォルト : 2
設定可能値 : 0 ~ 99

送信間隔 デフォルト : 15
設定可能値 : 2 ~ 999 (秒)

- 3) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

第 5 章

機器の電源制御

1. Webブラウザによる制御

注意 ブラウザは JavaScript と cookie に対応している必要があります。

- 1) Webブラウザを起動し、本機に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。
詳しくは P.29 「第4章-1.ログイン」参照
- 2) トップページ画面が表示されます。
「パソコン端末」をクリックします。
- 3) ログイン画面が表示されます。
ユーザー名とパスワードを入力して、ログインします。
- 4) トップメニュー画面が表示されます。
「機器の電源制御」をクリックします。
- 5) 機器の電源制御画面が表示されます。

機器の電源制御画面（この画面の表示中は自動ログアウトしません。）



電源状態の表示について

電源状態の自動取得による表示

ログイン時、電源操作直後、Webリロード時などの表示です。

アウトレットに遅延時間が設定されている場合は電源操作直後でも表示が変わらない場合があります。

「最新情報に更新」ボタンのクリックによる表示

最新の電源状態を取得し表示します。

6) 制御するアウトレットの操作ボタンをクリックします。

個別制御操作ボタンの動作

- ON** : 電源出力を開始します。
- OFF** : 電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。
【反映される機能】・ Shutdown(シャットダウン遅延時間)
- RESET** : 電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定されたリブート時間後に開始します。
【反映される機能】・ Reboot (リブート時間)

全 Outlet 制御操作ボタンの動作

- ON** : 全アウトレットの電源出力を設定された電源出力開始遅延時間後に開始します。
【反映される機能】・ PowerON (電源出力開始遅延時間)
- OFF** : 全アウトレットの電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。
【反映される機能】・ Shutdown(シャットダウン遅延時間)
- RESET** : 全アウトレットの電源出力をシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定された再起動時間後に開始します。
【反映される機能】・ PowerON (電源出力開始遅延時間)
・ 再起動時間

7) 電源操作終了後、Webブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理をします。

詳しくは P.31 「第 4 章-2. ログアウト処理」参照

<p>注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のまま Web ブラウザをとじた場合、一定時間他のホストから本機にアクセスできなくなります。この場合の一定時間とは、本機に設定されている「自動ログアウト時間」を指します。</p>

2. telnet 接続による制御

本機は telnet サーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

1) telnet による接続

「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。

以下のように指定し、本機にアクセスします。

TELNET ポート番号「8000」デフォルトの場合

「telnet_ “本機IPアドレス” _8000」
アンダーバーはスペースを表します。

注意 必ず TELNET ポート番号を指定してください。
TELNET ポート番号を指定しないとアクセスできません。

プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

```
220 LAN de BOOT (LAN de BOOT mini) server ready
```

2) ログインしないで制御する方法

パスワードとコマンドを組み合わせで実行します。

- 基本機能
- ・個別電源操作 (ON/OFF/RESET)
 - ・全アウトレット電源操作 (ON/OFF/RESET)
 - ・電源状態取得

制御コマンドを以下のように構成し、<ENTER>キーで実行します。

制御コマンド構成

```
*          # x x x x n
          :   パスワード
          :   制御コマンド
          :   アウトレット番号 1~4
```

例) アウトレット 4 番をリブートします。
(パスワードは magic とする)

```
* magic # por4
```

3) ログインして制御する方法

- 基本機能
- ・個別電源操作 (ON/OFF/RESET)
 - ・全アウトレット電源操作 (ON/OFF/RESET)
 - ・電源状態取得
 - ・電源状態取得 (詳細)
 - ・バージョン表示
 - ・パスワード変更

接続後、任意のキーで入力します。

パスワードが要求されます。

パスワードを入力し、<ENTER>キーで実行します。

「OK」の応答後、制御コマンドを入力し、<ENTER>キーで実行します。

```
220 LAN de BOOT (LAN de BOOT mini) server ready
password:OK
```

制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リセット）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n = 1 ~ 4
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n = 1 ~ 4
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リセット） n = 1 ~ 4
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答：mmmm 左側からアウトレット 1 ~ 4 m = 0 : OFF 1 : ON
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット 1 ~ 4 A=0 : OFF 1 : ON B=0 : シャットダウン遅延中 1 : ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間
VER	バージョンの表示
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを 2 回入力します。 入力を失敗すると変更されません。
EXIT	回線切断 最初の文字が E, e, Q, q の場合は EXIT と認識します。

Ver2.03 より大文字、小文字の区別がなくなりました。

「XPOS」「VER」「PASS」はログイン時のみ有効なコマンドです。

応答コマンド

正常受付 : Command OK

不正なコマンド : Unrecognized command

前コマンドの処理中のため
コマンド実行せず : Last command is pending. Command failed.

3. モバイル端末からの制御

- 1) Webブラウザを起動し、本機に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。
- 2) トップページ画面が表示されます。
トップページ画面



- 3) 「モバイル端末」をクリックします。
ログイン画面が表示されます。
ログイン画面



- 4) ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名 : admin (固定)
パスワード : magic (デフォルト)

5) モバイルメニューが表示されます。

モバイルメニュー画面



6) 「機器の電源制御」をクリックします。
機器の制御画面が表示されます。

機器の制御画面



7) 制御するアウトレットの操作ボタンをクリックします。
詳しくは P.43 「第 5 章-1.Web ブラウザによる制御」参照

8) 電源操作終了後、Web ブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理をします。

詳しくは P.31 「第 4 章-2. ログアウト処理」参照

4. i-MODE 端末からの制御

- 1) Web ブラウザを起動し、本機に設定された IP アドレスを指定してアクセスします。
- 2) ログイン画面が表示されます。

ログイン画面



- 3) i-MODE 用パスワードを入力し、「login」ボタンをクリックします。

パスワード : 0000 (デフォルト)

- 4) メニュー画面が表示されます。

メニュー画面



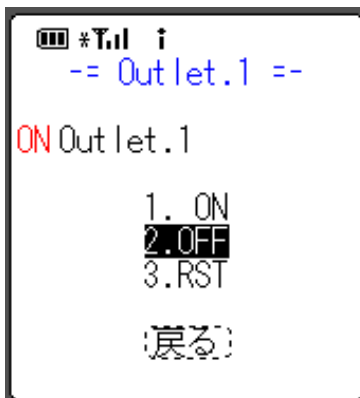
- 5) 「電源制御」を選択し、クリックします。
電源制御画面が表示されます。

電源制御画面



- 6) 制御するアウトレット番号を選択し、クリックします。
操作画面が表示されます。

操作画面



- 7) 操作する項目を選択し、クリックします。
詳しくは P.43 「第 5 章-1.Web ブラウザによる制御」参照
- 8) 電源操作終了後、Web ブラウザを閉じる場合は必ず「logout」
ボタンをクリックしてログアウト処理をします。
詳しくは P.31 「第 4 章-2. ログアウト処理」参照

注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のまま Web ブラウザをとじた場合、一定時間、他のホストから本機にアクセスができなくなります。この場合の一定時間とは、設定されている「無通信タイマー」の時間を指します。

5. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力です電源制御ができます。

- 1) ユーティリティソフトで COM 設定をします。
詳しくは P.17 「第 3 章-1. ユーティリティによる設定」 参照
- 2) 本体前面の DIP スイッチ.1 を OFF (上) にします。
- 3) 本体前面の COM とパソコンの COM を付属の RS232C (クロス) ケーブルで接続します。
- 4) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。
- 5) 制御コマンドを入力し <ENTER> キーで実行します。コマンドは「2.telnet 接続による制御」と共通です。
詳しくは P.47 「制御コマンド一覧」 参照
PASS コマンドは利用できません。
EXIT コマンドには応答のみ返します。

6. モデムからの制御

モデム経由です電源制御ができます。

- 1) ユーティリティソフトでモデム設定・COM 設定をします。
詳しくは P.17 「第 3 章-1. ユーティリティによる設定」 参照
- 2) 本体前面の COM とモデムをストレートケーブルで接続します。
- 3) 遠隔地のモデムから接続します。
- 4) 接続されるとパスワードが要求されます。
- 5) パスワードを入力します。コマンド入力状態になります。
- 6) 制御コマンドを入力し、<ENTER> キーで実行します。コマンドは「2.telnet 接続による制御」と共通です。
詳しくは P.47 「制御コマンド一覧」 参照
PASS コマンドは利用できません。

第 6 章 シャットダウン

1. シャットダウンについて

この機能により、接続された機器を正常にシャットダウンしてから電源出力を停止できます。シャットダウン機能を利用して、コンピュータの管理や遠隔地からのリモート通信などが容易にできるようになります。

2. 接続

別売のシャットダウン・ケーブル(XH-9609)で、本機とパソコンを接続します。パソコンの電源ケーブルも本機に接続します。シャットダウン I/F 番号とアウトレット番号は合わせてください。

シャットダウン・ケーブル(XH-9609)の信号仕様は、以下の通りです。
イベント発生時に信号は「負」から「正」へ変化します。
電源障害信号：CS 容量低下信号：CD

注意 シャットダウン・ケーブルは本機とパソコン間のシャットダウン以外に使用しないでください。誤った使用をしますと「接続した機器の故障」、「接続した機器の発火」などの原因となることがあります。

3. 本機の設定

Webコントロールプログラムを利用して設定します。
詳しくは P.32 「第4章-4.機器設定」参照

4. パソコンの設定

シャットダウン信号及び容量低下信号はイベント発生時「正」です。
以下のソフトウェア・サービスにおいて電源障害信号「正」を選択してください。

- ・ Windows NT/2000/XP の場合は、標準 UPS サービスを利用します。
- ・ Windows 98/ME の場合は、添付ソフト「PT シャットダウン」を利用します。
- ・ LINUX の場合は、電源障害信号及び容量低下信号に対応したソフトをご選択ください。

注意 接続されたパソコンのデータは、定期的にバックアップを取ってください。

第 7 章

ロギング機能

1. ログイン機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを 2000 件記録します。2000 件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) ユーティリティによる設定

記録モード・表示モードを設定します。

詳しくは P17.「第 3 章-1.ユーティリティによる設定」参照

モードの設定はできませんが記録されたログの表示はできません。ログの表示確認をする場合は telnet またはターミナルソフトを利用します。

2) TELNET による設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し<ENTER>キーで実行します。コマンドはシリアル、telnet 共通です。ログインして制御する方法で操作してください。

接続については P.45「第 5 章-2.telnet 接続による制御」参照

ログについては P.57「ログモード 記録ログ一覧表」P.58「ログ表示形式/ ログ用コマンド表/」参照

3) ターミナルソフトによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し<ENTER>キーで実行します。コマンドはシリアル、telnet 共通です。

接続については P.52「第 5 章-5.シリアルからの制御」P.52「第 5 章-6.モデムからの制御」参照

ログについては P.57「ログモード 記録ログ一覧表」P.58「ログ表示形式/ ログ用コマンド表/」参照

注意 本体電源が切断された場合または本体前面の RESET スイッチが押された場合、ログと記録時間がリセットされます。

ログモード

- 記録モード デフォルト：0
- 0 : Ping 送信、Ping 無応答以外全て記録
 - 1 : Ping 送信以外全て記録
 - 2 : 全て記録
- 表示モード デフォルト：2
- 0 : Ping 送信、Ping 無応答以外全て表示
 - 1 : Ping 送信以外全て表示
 - 2 : 全て表示

記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント (記録・表示のモード設定があります。)	
ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定 (Action) に基づくイベント	
No Action	処理なし
Reset	電源リセット
On	電源 ON
Off	電源 OFF
Send Trap	SNMP トラップ送信
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリポート (電源リセット)
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリポート (電源リセット)
アクセスによるイベント	
--> Modem	モデム接続
==> Modem	モデム・ログイン
<-- Modem	モデム切断
--> Telnet	telnet 接続
==> Telnet	telnet ログイン
<-- Telnet	telnet 切断
--> Web	Web アクセス
==> Web	Web ログイン
<== Web	Web ログアウト
UPS 連携によるイベント	
Power Trouble	電源障害発生
Power Trouble Recover	電源障害回復
Battery Low	UPS 容量低下発生
Battery Low Recover	UPS 容量低下回復

ログ表示形式

nnn ttt a b xxxxxxxx

nnn : 連番号
ttt : 記録開始からの時間
a : アウトレット番号
b : IP アドレス
xxxxxxx : イベント

ログ用コマンド表

ログ用コマンド	内 容
LOGMODE	記録モード変数の表示
LOGMODE=n	記録モードの設定 n : 記録モード変数
LOGDISP	表示モード変数の表示
LOGDISP=n	表示モードの設定 n : 表示モード変数
LOG	ログの表示 (連番号順)
LOG n	ログの表示 n : 連番号
LOGB	ログの表示 (逆連番号順)
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は 20 項目です。 <Enter> キーで続きの 20 項目を表示します。

Telnet など複数同時アクセスはお止めください。誤動作、誤表示の原因となります。

第 8 章
無停電電源装置
(UPS)との連携

1. 本機と無停電電源装置（UPS）の接続

本機とUPSを以下の手順で接続します。

UPS ご利用の際は、シリアル・モデム通信は使用できません。

- 1) UPSと本機とを専用通信ケーブルで接続します。
専用通信ケーブルは弊社もしくは各UPSメーカーにご相談ください。
- 2) 本体前面DIPスイッチ.1をON(下)にします。
- 3) 本機の電源コードをUPSのACアウトレットに接続します。
- 4) UPSの電源出力を開始します。

2. Web ブラウザによる設定

- 1) Web ブラウザから本機にログインします。
詳しくは P.29 「第 4 章-1.ログイン」参照
- 2) 設定メニュー画面で「UPS 設定」をクリックします。
- 3) UPS 設定画面が表示されます。

UPS 設定画面



4) 各項目を設定します。

UPS 名称

UPS の名称を設定します。半角英数字で最大 20 文字まで指定できます。

UPS モニタ時間間隔

UPS のバッテリー状態、入出力電圧状態などを確認する間隔を設定します。

デフォルト : 10
設定可能値 : 0、10 ~ 60 (秒)
「0」: 5 秒間隔となります。

シャットダウン開始待機時間 (停電確認時間)

電源障害発生後、電源障害の解消を待つ時間を設定します。設定された時間が経過すると、本機は停電状態と認識し、シャットダウン処理を開始します。設定された時間内に電源障害を検知した場合には、通常状態に戻ります。

デフォルト : 120
設定可能値 : -1 ~ 300 (秒)
「-1」: 自動でシャットダウンを開始しません。
「0」: 即座にシャットダウンを開始します。
「1 ~ 300」: 指定した時間後、シャットダウンを開始します。

【シャットダウン処理】

電源障害信号と容量低下信号を ON します。各アウトレット設定されたシャットダウン遅延時間後に OFF します。

UPS 自動停止 (UPS 出力停止機能)

停電時に、全デバイスのシャットダウン後、UPS の出力停止を自動的に行う機能です。UPS が本機能に対応している場合、過放電を回避するために有効にしてください。

デフォルト : 無効

停電検知レベル	デフォルト	: 正
ローバッテリー検知レベル	デフォルト	: 正
シャットダウン信号レベル	デフォルト	: 正

上記 3 項目の設定は接点式 UPS を接続する場合に必要です。ご利用になる UPS の取扱説明書をよく確認し、設定をしてください。この 3 項目の設定を有効化するには Web 画面上の「設定更新」ボタンのクリック後、必ず本体の RESET スイッチを押してください。

- 5) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。
- 6) 設定終了後、Web ブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理をします。
詳しくは P.31 「第 4 章-2. ログアウト処理」参照

UPS の設定は、ユーティリティからもできます。
詳しくは P.16 「第 3 章 初期設定」参照

第 9 章 システム情報

1. システム情報について

本機に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。
アクセスする端末により取得できる情報が異なります。下記端末別情報取得項目表を参照してください。

端末別情報取得項目表

情報項目	パソコン	モバイル	i-MODE
・システムに関する情報			
・ネットワークに関する基本情報			
・アウトレットに関する情報			
・アウトレット監視状況			
・セキュリティに関する情報			
・SNMPに関する情報			
・UPS管理に関する情報			
・その他の情報			

「アウトレット監視状況」「SNMPに関する情報」はセキュリティ設定が無効または有効で権限レベルが「admin」となっている場合に限りです。

i-MODEにはセキュリティ設定が反映されません。

- 1) Web ブラウザから本機にログインします。
詳しくは P.29 「第 4 章-1.ログイン」参照
- 2) トップメニュー画面で「システム情報」をクリックします。
システム情報画面が表示されます。

システム情報画面



- 4) 「システム関連の詳細を表示」ボタンをクリックします。詳細情報の確認ができるのは、セキュリティ設定が無効または有効で権限レベルが「admin」となっている場合に限ります。

詳しくは P.37 「第 4 章-6. セキュリティ設定」参照

アウトレット監視状況の表示について

監視設定の設定内容及び、設定に基づいた判定結果などを表示します。

Judge

監視の判定結果（正常/異常/回復中）を表示します。

- 正常 : 無応答状態が Action を起こす条件に達していない状態
- 異常 : 無応答状態が Action を起こす条件に達している状態
- 回復中 : Action 後、Action を起こす条件では無くなっているが無応答の IP アドレスがまだ存在する状態。再度条件が成立しても 1 時間に 1 度しか Action を起こしません。

Send

設定された送信回数を表示します。

No Echo Limit

設定された無応答回数を表示します。

Cond

異常と判定された IP アドレスの数を表示します。

Action

設定された Action の内容を表示します。

Action Count

実行された Action の回数を表示します。

Action 設定	表示内容
NoPing	表示なし
noAction	表示なし
sendTrap	SNMPトラップの送信回数
Reset	リブート（電源リセット）の回数
powerOn	電源 ON の回数
powerOff	電源 OFF の回数
SendTrap & reset	リブート（電源リセット）の回数
SendTrap & powerOn	電源 ON の回数
SendTrap & powerOff	電源 OFF の回数

Last Ping

最新の応答結果を表示します。

No Echo Count

送信回数に対する無応答回数を表示します。

Action 後、最初の応答を受けると「0」になります。

- 6) 確認後、Web ブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理します。

詳しくは P.31 「第 4 章-2. ログアウト処理」参照

第 10 章 SNMP の使用

1. SNMP について

本機はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理、電源制御を統合的に行うことができます。

2. MIB について

本機及び本機に接続するUPSを管理するためのプライベートMIBを準備しています。

付属CD-ROM内 本機-MIB (mibファイル)

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機及び接続されたUPSの管理をNMS上で行うことができます。

<p>注意 MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。</p>
--

第 11 章 仕様一覧

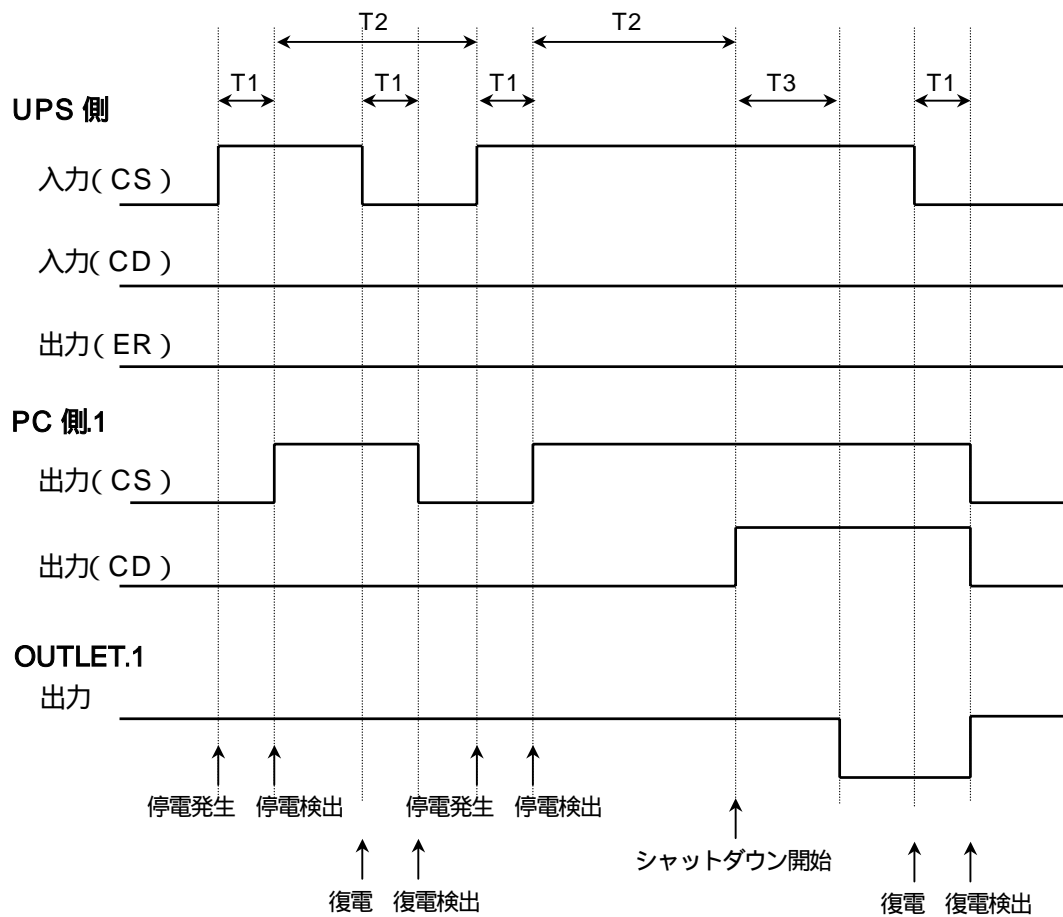
仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様	DIX Ethernet Version2.0
		ICMP, I P, UDP, BOOTP, DHCP, SNMP
		ECP, FTP, TELNET. HTTP
	LAN制御方法	SNMPマネージャー
		HTTP
		TELNET
		i-MODE
機能	電源制御 / 管理	電源ON
		電源OFF
		リブート
		電源状態取得
	遅延時間設定	電源ON遅延時間
		電源OFF遅延時間 (シャットダウン時間)
		リブート時間
	UPS連携	Ethernetコンバーター
		停電時連動機能
	シャットダウン機能	電源障害信号出力
	状態監視	ping送信
		通報機能 : SNMPトラップ
		自動電源制御
WOL対応機能	あり : MAGIC PACKET送信	
ハード仕様	インターフェース	10Base-T x 1 (形式はIEEE 802.3に準拠)
		RS-232C x 1(Dsub9ピンオス)
		RJ11 x 4
	最大制御出力	100VAC 15A
	消費電力	最大5.8W
	外形寸法	220(W) x 45(H) x 170(D)mm
	重量	1.8 kg
	使用環境	温度 5 ~ 40
		湿度 20 ~ 85% (ただし結露なきこと)
	仕様電源	AC100V ± 10%(50/60Hz)

タイムチャート

- 接点式 UPS 利用時
- ・ UPS 自動停止無効
 - ・ DIP スイッチ.1 のみ ON
 - ・ PowerON=0(s)

- T1 : UPS モニタ時間間隔
 デフォルト : 10 秒 設定可能値 : 0、10 ~ 60
- T2 : シャットダウン開始待機時間 (停電確認時間)
 デフォルト : 120 秒 設定可能値 : -1 ~ 300
- T3 : Shut down (シャットダウン遅延時間)
 デフォルト : 30 秒 設定可能値 : 0 ~ 3600



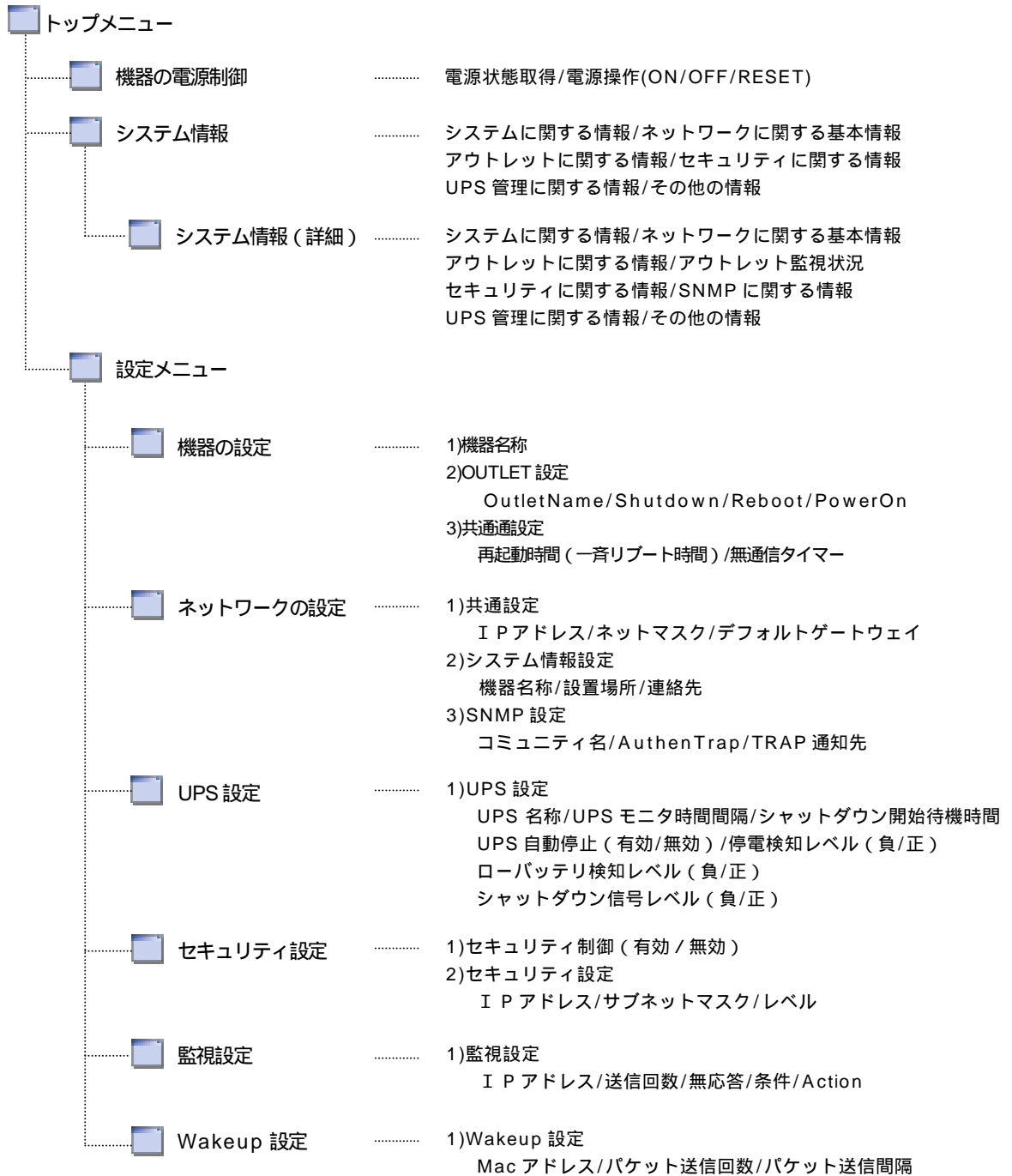
CS : 電源障害信号
 CD : 容量低下信号

状態遷移表

状態		1		2		3		4		5		6		備考
電源状態		ON		ON		ON		OFF		OFF		OFF		
ON time	OFF time	無	無	有	無	無	有	無	無	有	無	無	有	
MPON		OK		Failed		Failed		OK		Failed		Failed		他のアウトレットが処理中の場合も不可
		2		-		-		5		-		-		
MPOF		OK		Failed		Failed		OK		Failed		Failed		他のアウトレットが処理中の場合も不可
		3		-		-		6		-		-		
MPOR		OK		Failed		Failed		OK		Failed		Failed		他のアウトレットが処理中の場合も不可
		5		-		-		5		-		-		
PON		OK		Failed		Failed		OK		OK		OK		
		-		-		-		1		1		3		
POF		OK		Failed		OK		OK		Failed		Failed		
		3		-		備考 2		-		-		-		
POR		OK		OK		OK		OK		OK		OK		
		5		5		5		5		備考 2		5		
備考 1				TIME UP で 「1」へ		TIME UP で 「4」へ				TIME UP で 「1」へ		TIME UP で 「1」へ		
備考 2						OFFtime リスタート				On time RESET time				

Failed : Last command is pending. Command Failed

Web のツリー構造図



製品改良などのため、取扱説明書と製品の Web 画面が異なる場合があります。ご了承ください。

ご注意

- (1) 本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写、複製することは禁じます。
- (2) 本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

Windows95、Windows98、WindowsME、WindowsNT、Windows2000
は Microsoft Corporation の登録商標です。

「iモード」および「i-mode」ロゴは NTT ドコモの商標または登録商標です。
その他、記載の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

LAN・デ・ブート ミニ R P C - 4 L
取扱説明書 第 3.1 版
著作権所有 明京電機株式会社 2003 年 9 月

明京電機株式会社

〒116-0012 東京都荒川区東尾久 4-27-2
TEL (03)3810-5580 FAX (03)3810-5546
URL : <http://www.meikyo.co.jp>
E-mail: info@meikyo.co.jp
